

平成28年度は、戦争の悲惨さや平和の尊さを継承し、平和への想いに対する新たな誓いを行いました。

<戦後71年大阪戦没者追悼式>

「戦後71年大阪戦没者追悼式」（平成28年7月26日水曜日）では、次世代への取り組みとして下記の事を行いました。

○平和の合唱

大阪府立清水谷高等学校合唱部の皆さんで、平和を想い3曲の合唱を披露いただき、平和への誓いを新たにしました。



1. ほたるこい わらべうた
2. 女声合唱とピアノのための「空の名前」より夕焼け
3. 夕焼け小焼け

○戦争体験の語り

戦争体験者の語り部として、大阪戦災被害者・遺族の会 会長 伊賀 孝子さんから戦争の悲惨さや平和の尊さを継承するため、当時の状況や思いを披露いただきました。

1 はじめに

今では、多くの方が、朝に目覚めて、仕事等に従事したのち、家族の団らんを過ごしたあと就寝されています。けれども今から70年ほど前の私たちの生活は今の世の中と大きく異なっています。私の経験を基に、「平和の大切さ」を皆さまにお伝えできればと考えています。

2 戦災のまえぶれ

私の小学校低学年頃には、真冬でも教室で暖房を取れなくなり、小学校高学年頃では、色鉛筆や絵の具がなくなり、卒業式の歌も「蛍の光」から「海行かば」に変更となりました。商業学校時代頃は、学徒動員が始まり、空襲警報が入るようになり、府内でも爆弾により人が亡くなったと耳にすることが増えてきました。

3 私の受けた空襲

大阪には多くの爆撃機が飛来し、爆弾、焼夷弾等による50回あまりの空襲が行われた中、昭和20年3月14日未明の大空襲により、私は、母と小学1年生の弟とは永遠の離別を余儀なくされ、父と私は大火傷を負うこととなりました。14日の少し前から空襲警報のサイレンが多くなり、その夜も私も弟は防空壕で寝起きをしていました。「警戒警報発令」という声で目覚め、素早く身支度を整えたのち、父と一緒に様子を見到ゆくと、西の空が真っ赤な夕焼けのようになっていました。爆撃機の飛来に併せて防空壕への避難を繰り返したのち、4人そろって防空壕を出た、その時に油脂ボールがいたるところに掛かっており、熱さのあまり近くの防火用水に飛び込みました。しばらくすると父に巡り合い、父が連れて行ってくれた防火用水には弟が入っていました。火傷を負った父が弟を背負い一緒に南へ逃げました。私は、幸いにして立ち上がったところ、たくさんの人が治療を待っていました。私は、その学校で応急処置を受けました。応急治療のあと、焼け残ったおじの家にとどり着くことができず、背中を覆うほどのひどい火傷を負っていました。母の行方が分からないので、父や親戚の者が捜していたところ、焼夷弾の直撃を受けた防空壕で両膝がない状態で発見されました。母は即死だったのを最後に、弟は亡くなりました。他の家族と同様、私たちも泣きながら弟と生焼けになった母の遺体を焼け跡で火葬しました。生き残った父と私には、今も残る火傷の痕と深い心の傷だけが残りました。

4 終戦の日

天皇陛下の玉音放送のあと、おじさんから「日本は戦争に負けたよ。」と聞かされました。私は、「今夜からあの恐ろしい空襲がなくなり、ゆっくり寝られる。」と思つたことを今でも覚えていますが。現在は、平和を願うとともに、大阪戦災被害者・遺族の会の活動のひとつとして、名もなき大阪空襲死没者を追悼するため、死没者名簿の収集活動等に尽力しています。

